

商品別見直し(輸出)

(商品別輸出)

2016年12月7日(水)

品目	2015年度 (実績)		2016年度 (見込み)				2017年度 (見直し)		コメント				
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%	10億円	伸び率%			
			伸び率%	伸び率%	伸び率%	伸び率%							
総額	74,117	▲0.7%	34,021	▲9.9%	35,083	▲3.5%	69,105	▲6.8%	↑	70,516	+2.0%	2年連続の減少。	3年ぶりに増加に転じる。
EX 01 食料品	599	+16.4%	295	+1.9%	329	+6.2%	624	+4.1%	↑	684	+9.7%	円高による価格競争力の低下や、不漁不作が逆風となるが、日本産品に対する需要の高まりから輸出金額が増加。	農林水産物・食品の輸出金額を1兆円にするの目標を政府が掲げる中、日本産品に対する底堅い需要が後押しして輸出金額が増加。
EX 02 原料品	1,082	▲9.9%	472	▲20.0%	400	▲18.6%	872	▲19.4%	↑	901	+3.3%	減少続く。 鉄スクラップ:国内向けに振り向けられるため数量が伸び悩み、円高により価格が下落することから輸出金額は減少。 生ゴム(合成ゴム):数量に大きな変化はないが、円高により輸出金額は減少。 織物用繊維及びびくず:現地調達やアンチダンピングなどにより、中国向けの数量が引き続き減少することから、全体としても大きく減少。	16年度の落ち込みの反動で数量は緩やかに持ち直し、円高が一服することから輸出金額も緩やかに持ち直す。
EX 03 鉱物性燃料	1,143	▲20.7%	465	▲30.8%	460	▲2.3%	925	▲19.1%	↑	1,002	+8.4%	主要輸出先であるアジアの景気回復により、軽油、灯油などの数量は微増するものの、原油価格の下落により価格が下落。輸出金額が減少。	国内生産能力の削減に向けた取り組みなどにより、数量は横ばいまたは若干の減少。原油価格の底打ちにより価格が上昇し、輸出金額は回復。
EX 04 化学製品	7,574	▲3.4%	3,453	▲10.8%	3,796	+2.5%	7,249	▲4.3%	↑	7,611	+5.0%	輸出先の需要堅調に加え、下半期は一部国内エチレン生産設備の稼働回復が下支えとなり、主要石油化学製品のエチレン換算輸出数量は引き続き高水準。ただし、通年では円高や原油価格下落の影響で輸出金額は減少。	増加に転じる。原油価格の回復が輸出金額を押し上げる一方、米国シェール由来のエチレンプラントの稼働や東アジアの一部大型プラントの生産回復が価格を下押し。
EX 05 原料別製品	8,790	▲8.6%	3,872	▲16.7%	3,792	▲8.4%	7,664	▲12.8%	↑	7,991	+4.3%	数量が大きく変わらない中、円高により輸出金額は減少。	数量はほぼ横ばい。鉄鋼価格の回復が下支えとなり、輸出金額は増加。
鉄鋼	3,381	▲15.6%	1,387	▲24.0%	1,401	▲10.0%	2,788	▲17.5%	↑↑	3,112	+11.6%	アジア市場での需要が低迷している一方、インドやメキシコなどの需要が堅調で、数量は15年度並み。価格は回復基調だが、円高により輸出金額は減少。	数量は16年度並み。16年度下半期の原料炭高騰を受けて値上げの動きが広がり、輸出金額は増加。
非鉄金属	1,352	▲9.5%	617	▲16.6%	601	▲1.9%	1,218	▲9.9%	→	1,225	+0.6%	銅:下半期の数量は上半期と同水準。銅価格の下落および円高を背景に、輸出金額は減少。 アルミニウム:軽圧メーカーの海外現地生産が進み、数量・金額ともに減少。	増加に転じる。 銅:数量の減少を価格の回復が相殺し、輸出金額は増加。 アルミニウム:数量の減少傾向は続くが、地金相場の回復により減少幅はやや緩やかに。
織物用糸・繊維製品	728	+2.6%	337	▲8.6%	326	▲9.1%	664	▲8.8%	↑	671	+1.0%	アジア、特に中国向けの自動車関連資材を中心に数量は増加(衣料向けは15年度並み)。しかし、円高に伴う価格の大幅下落が響き、輸出金額は約1割減。	円高に歯止めがかかり価格は下げ止まるが、中国をはじめとする新興国経済の減速から数量の伸びは鈍化。この結果、輸出金額は増加に転じるが、小幅な伸びに。
非金属鉱物製品	879	▲1.5%	410	▲8.4%	387	▲10.4%	797	▲9.4%	↑	826	+3.7%	ガラス:海外現地生産へのシフトが継続するため数量が伸びず、円高により単価が下落するため輸出金額も減少。 セメント:市況価格が低水準で継続的に推移するため、輸出金額は減少。	数量はほぼ横ばいで推移する一方、為替はやや円安に振れ、総じてみると輸出金額は緩やかな増加となる。
ゴム製品	942	▲8.6%	415	▲17.7%	377	▲14.0%	792	▲16.0%	↓	766	▲3.2%	7割弱を占めるタイヤを中心に2年連続の減少。世界のタイヤ市場では、資源分野の稼働率低下に伴う鉱山用・建機用の需要縮小などから一層の供給過剰となり、数量・価格の双方を下押し。さらに、円高による輸出金額の目減りも。	減少が続く。円高に歯止めがかかるほか、タイヤ市場では資源分野での需要下げ止まりも期待されるが、世界的な供給過剰状態は解消できず。
EX 06 一般機械	14,055	▲3.1%	6,674	▲6.8%	6,753	▲2.1%	13,427	▲4.5%	↑	13,600	+1.3%	新興国経済の減速、メーカーの海外現地生産・調達の拡充などにより数量は減少。円高の影響で輸出金額も減少。	増加に転じるも、海外現地生産・調達の動きが継続し伸び悩む。
原動機	2,529	▲2.1%	1,142	▲10.3%	1,181	▲6.0%	2,323	▲8.2%	↓	2,288	▲1.5%	内燃機関(含部品)の海外現地生産・調達の拡充などにより数量は減少。円高の影響で輸出金額も減少。	海外現地生産・調達の拡充が継続し減少。
EX 07 電気機器	13,034	+0.3%	6,013	▲10.6%	6,320	+0.2%	12,333	▲5.4%	↑	12,479	+1.2%	上半期は円高の影響もあり金額が減少したものの、下半期は新興国向けスマートフォンや大容量半導体メモリを中心に増加が期待される。しかし、上半期の落ち込みを挽回できず、通年で輸出金額は5.4%減。	新興国向けの高性能スマートフォンやIoT関連、カーエレクトロニクス関連向け先端デバイスへの投資が活況。16年度上半期の半導体装置大手の受注実績は好調で、16年度下半期から17年度上半期にかけて輸出実績に寄与すると見込まれ、輸出金額は17年度としては1.2%増。
半導体等電子部品	3,829	+0.3%	1,765	▲12.9%	1,846	+2.4%	3,611	▲5.7%	↑	3,683	+2.0%	スマートフォンは先進国では成長が鈍化しているものの、新興国では伸長しており今後も継続する。搭載メモリを増強したモデルが増加傾向で、今後も伸びる見通し。 下半期は2.4%増を見込むが、上半期の落ち込みもあり、通年では5.7%減。	半導体デバイス製造装置関連の投資が継続すると考えられ、先端デバイスを中心に成長が見込まれる。 IoT関連、カーエレクトロニクス関連の需要も継続し、増加が続く。
電気計測機器	1,455	+1.6%	703	▲4.6%	729	+1.6%	1,432	▲1.5%	↑	1,456	+1.6%	主にスマートフォン用として、最先端デバイスの投資が17年度から16年度に前倒ししていることから、下半期は増加傾向。さらに、パソコンや大容量サーバー向けメモリの需要増に伴い、数量は伸びる見通しだが、通年では減少に転じる。	16年下半期からの投資が継続し、数量・金額ともに伸長する。
EX 08 輸送用機器	18,175	+5.2%	8,259	▲6.8%	8,608	▲7.5%	16,867	▲7.2%	↑	17,088	+1.3%	欧米向け自動車輸出は堅調だが、円高により減少。船舶は供給過剰の継続に加え、中国の景気低迷を受けた荷動きの低下で輸出金額は減少。	欧米向け自動車輸出は堅調を見込むが、不透明な景気の見直しに加え保護主義的傾向が強まり、大幅な伸びは期待できない。円高要因がなくなり、微増。
自動車	12,056	+7.7%	5,417	▲7.7%	5,648	▲8.7%	11,065	▲8.2%	↑	11,319	+2.3%	数量は、米国、欧州向けが堅調。中国向けも回復に転じるが、産油国向けが大幅に減少し、全体では小幅減。円高により輸出金額は8.2%減。	全体に不透明感が強く大幅な増加は期待できないが、原油価格の下げ止まりを背景に、産油国向け輸出台数が底打ちで数量は持ち直す。円高要因がなくなり、輸出金額は2%程度の増加。
自動車の部分品	3,423	▲2.3%	1,692	▲2.3%	1,673	▲1.1%	3,365	▲1.7%	→	3,382	+0.5%	欧米向けは堅調だが、円高により輸出金額は減少。	自動車の海外現地生産へのシフトは続くものの、欧米の現地調達が進み、数量は微増にとどまる。
船舶	1,437	+7.2%	566	▲14.3%	655	▲15.6%	1,221	▲15.0%	↓	1,147	▲6.1%	船舶は受注による計画生産。近年の船腹過剰感に加え、中国の景気低迷を受けた鉄鉱石などバルク貨物取引の減少などにより、船舶市況・備船価格ともに下落、船主の採算が悪化。そのため、契約の履行遅延やキャンセルを見込む。	基本的な構図は16年度と同様。
EX 09 その他	9,667	+4.3%	4,519	▲8.3%	4,625	▲2.4%	9,144	▲5.4%	→	9,160	+0.2%	海外経済の減速や円高の影響などから、科学光学機器を中心に落ち込み。	海外経済の持ち直しや円高一服を背景に下げ止まり。
科学光学機器	2,261	▲8.9%	987	▲15.7%	1,087	▲0.3%	2,074	▲8.3%	↑	2,098	+1.2%	上半期は円高もあり新興国向けのスマートフォン、タブレットなどの需要が縮小、下半期は回復が予想されるも、上半期の落ち込みをカバーできず、通年ではマイナス成長。	新興国向け高性能スマートフォンやIoT関連などの先端機器への需要が拡大、1.2%の成長となる。

\*2016年度上半期の実績は確報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

\*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している